

始良・伊佐地区研究協力校（学力向上：国語科）研究公開

（始良市立松原なぎさ小学校）

自分の見方・考え方を伝え合い、学びを深める子どもの育成
～国語科「読むこと」の言語活動の充実を中心に～

全体会

読む力の低下、消極的な対話活動といった児童の実態を受け、国語科「読むこと」の領域を中核にした言語活動の充実を通して、自ら学びを深めることができる子どもを育てようと研究を続けてこられた二年間の様子が紹介されました。

研究の理論面、授業改善の手立て、学習環境の整備、そして学力向上に向けた多くの実践等がその成果とともに堂々と発表されました。特に、上園健剛教諭・稲本慎吾教諭・川畑智博教諭・天目石愛教諭によるリレー形式の発表は、学校一丸となった取組であることを強く印象付けるものでした。参加した先生方からも、「各班からの発表があることで、全体で研究が進んでいるような印象を受けました。」「分かりやすいスライドや発表内容で対話活動に興味が湧きました。」「研究を進めてきた過程がよく分かった。今後の実践へ生かしていきたい。」等の感想が寄せられました。

発表内容の概要は、以下のとおりです。



仮説1【見通しと振り返り、意図や目的を明確にした対話】

- 「なぎさっ子わくわく授業プラン」を作成し、目標とずれのない言語活動をしっかり位置づけた。また、1単位時間の中で「何のために今日の読む学習活動を行うのか」をしっかりと意識させることができた。
- 学習計画と自己評価カードを一体化することで、子どもの思考の可視化につながり、適切な助言や客観的な評価を行うことができた。
- 「考えタイム」「伝えタイム」「深めタイム」の学習スタイルが確立するとともに、「伝えタイム」における交流のかたちを類型化することで、発問や声かけ等がより明確になった。

仮説2【学習環境、子どもの意識の変容】

- 学習の構えや掲示物の工夫、並行読書コーナーの設置、ICTの活用等により学習効果を高めることができた。

仮説3【学習内容の定着】

- 単元テストの分析や集計を共有化し、指導法改善や補充指導等につなげることができた。

公開授業

【2年2組 『お手紙』～マペット音読劇をして、お手紙を書こう～】

中西由紀教諭は、登場人物のマペットを使い簡単な動作をつけて演じる音読劇や登場人物に手紙を書かせるという言語活動を通して、行動や会話を中心に想像を広げながら読む力を育成しようとしていました。

本時では、「伝えタイム」における友達との意見交流において自分の見方や考え方が広がり、深まる様子が伝わり交流の成果が見られました。参観者からも「指



導計画の工夫，教材の有効活用が子どもたちの学習意欲につながっていたと感じた。」「2年生全員がマペットを作っていて，ペアによる交流の際に，かえるくん，がまくんを表情豊かに演じている姿がよかった。」といった感想が寄せられました。

【4年2組 『ごんぎつね』～読んで考えたことをキャラクターカードにして，友達と話し合ったり紹介したりしよう～】

教材文「ごんぎつね」における「キャラクターカード」作りを新美南吉作品の並行読書に生かすことで，登場人物の人物像や心情の変化を捉えさせようという言語活動を計画した小原武教諭。考えたことを発表し合い，一人一人の感じ方の違いに気付くことのできる力を育成しようとなりました。

本教材について，「ごんカード」や「兵十カード」を使用し，読み取ったことに対する共通点や相違点を話し合うという本時では，視点を明らかにした交流活動による児童の主體的で対話的な活動が随所に見られました。参観者からも「キャラクターカードに子どもたちが熱心に書き込んでいて交流が活発にできていた。」「ことばの宝物の掲示や机間指導の際に使用されていた発問予想チャートがよかった。」といった声が聞かれました。



【6年1組 『鳥獣戯画を読む』『この絵，私はこう見る』～筆者のものの見方をとらえ，名画のよさを伝える鑑賞文を書こう～】

細田かおり教諭は，筆者の考え方をとらえ，自分の考えを明確にしながら読むことができる力や表現の効果を確かめたり工夫したりして書くことができる力を身に付けさせることをねらいとして，鑑賞文を書くという言語活動を設定しました。

本時では，筆者の使用している言葉を段落ごとに整理させるとともに，自分の鑑賞文に使いたい言葉を出し合い交流させる活動が行われました。「子どもたち一人一人がしっかりと教科書を読み込み，それを伝え合い，全体の場で深め合うという流れができあがっており，毎時間の指導が行き届いていると思った。」「子どもたちが自主的に動き，参観していて楽しい授業だった。単元全体を見通した教師側の準備次第で子どもたちの動きが大きく変わることを再認識できた。」という感想にもあるとおり，参観者に多くの示唆を与えていました。



分科会

各分科会では，研究を進めてきた，意図や目的を明確にした対話活動である「考えタイム」「伝えタイム」「深めタイム」の流れに沿った協議を行いました。授業における児童の思考過程をたどることとなり，ユニークで効果をあげる取組でした。参観者の感想に「グループ協議では，他校種の先生から違った視点による意見が出て新鮮だった。」とあったように，公開授業の内容を踏まえながら活発な意見交換が行われました。また，授業者のみならず松原なぎさ小学校の先生方が参加者の質問や意見に積極的に回答する姿が印象的で，学校挙げての取組の充実ぶりを感じさせました。

その他，体育館後方に設置された学年毎の学習の足跡や，国語学習に対する興味・関心を高めようとする教室内外の掲示物を参加者は熱心に見学していました。

